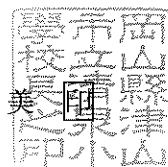


(様式)

平成25年度 津山市立清泉小学校 学校評価書

校長 福田 暁 美



1 自己評価

I 評価結果

縦割り活動や運営委員会の活動をととして5・6年生の児童を中心に自主的・自治的な動きができるなど、学校全体が落ち着いてきた。学力の定着や学習集団の育成については、魅力ある授業づくり事業で外部講師に指導していただき、一定の成果がみられた。学校開放では工夫した取り組みができ、地域人材の活用による長年の成果も上がってきている。

II 分析・改善方策

学力の向上に関しては、家庭と連携していくことが必要である。学力の定着に向けて、時間・内容など学校全体の動きをつくりながら家庭学習の習慣化をはかる。個々の児童の課題を分析し、弱点を無くしていく。今後も家庭や地域としっかり連携しながら教育活動を推進していきたい。

2 学校関係者評価委員会

高山暉浩（綾部東町内会長）	香山博道（妙原町内会長）	新城和雄（妙原老人クラブ会長）
内田潔江（清泉公民館長）	西川 俊（スポーツ少年団代表）	野口泰俊（主任民生児童委員）
山本哲也（PTA会長）	安藤聖二郎（かけこみ110番）	

3 学校関係者評価

概ね自己評価と同様な評価であった。本年度重点的に取り組んだ教育活動は一定の成果を上げていると評価していただいた。

あいさつ、家庭学習など家庭としっかり連携していくことが大切である。先進校の研究会に参加したり、公開授業を行ったりしながら力をつけて、子どもたちにわかりやすい授業をしてほしい。学習規律を身につけて、中学校へ進学させてほしい。

今後も地域環境・地域人材を活かした取り組みを是非続けていただきたい。また、地域の行事にも積極的に参加するなど、地域の伝統を継承する人材を育てていただきたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○基礎学力を充実し、自主的に取り組む学習態度を育てる。

授業改善計画に基づき、ペア・班学習の推進と書く力の充実を図る。

P T Aと連携して、学習規律の確立と学習習慣の形成を図る。

反復練習・家庭学習・補充学習により学力の定着を図る。

○人間関係の改善・深化を図りながら、豊かな心・健やかな体を育成する。

人間関係育成の基本である言葉遣いとあいさつをくりかえし指導する。

縦割り活動をととして、異学年との交流を図り、思いやりの心を育てる。

○学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。

地域人材や地域教材を活用した体験学習等を推進する。